

3月に、生徒の主体的な学びを広げる取り組みとして、「AI 講演会」と「探究活動の成果発表」が行われました。どちらの活動も、生徒自らが学びを深め、社会とのつながりの中で成長していく姿が見られる貴重な機会となりました。

■ IT クルー主催「AI 講演会」を開催

3月16日(月)放課後、本校 IT クルーの企画により、北海道情報大学システム情報学科の長尾光悦 教授を講師としてお招きし、「あなたの知らないAI(人工知能)の世界」と題した講演会を実施しました。当日は、司会を務めた2年生の西村さんの進行のもと、講師紹介に続いて講演がスタートしました。講演では、AI が医療・交通・観光・教育など幅広い分野で活用されている現状について、実際のロボットや自動運転車の動画を交えながら、わかりやすく解説していただきました。講演の後半には、生成AIの実践演習も行われました。講師が持参したiPadを用いて、実際にAIに指示を出し、その応答を体験することで、生徒たちはAIの仕組みや可能性を体感的に理解することができました。



参加した生徒からは、次のような声が聞かれました。

「AI は少し怖い存在だと思っていましたが、使い方がわかり、活用に前向きになれました」
 「動画などを使った説明で、今日から使える実践的な知識を楽しく学べました」
 「便利さの裏にある社会的課題についても考えるきっかけになりました」

この講演会はAIを「知る」だけでなく、「どう向き合うか」を考える貴重な機会となりました。

■ 平岸マイプロジェクト成果発表(ポスターセッション)

1年間にわたり、自らの興味・関心に基づいて探究活動に取り組んできた「平岸マイプロジェクト」のメンバーは、3月に複数の外部発表の場に参加しました。

3月8日:札幌市立高校プレゼンテーション大会 2025 (SCARTS)

3月18日:SSH・コズモプロジェクト研究成果報告会(市立札幌開成中等教育学校)

3月26日:チカホ Lab(地下歩行空間)

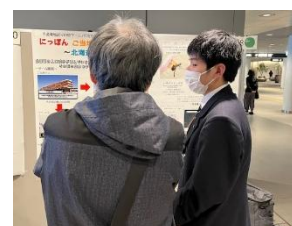
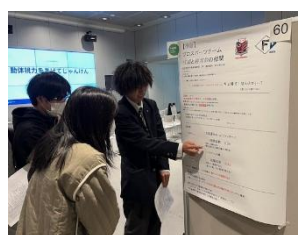
これらの発表では、生徒たちが自分たちの探究テーマについてポスターにまとめ、来場者に対して説明を行いました。地下歩行空間での発表では、多くの市民の方々が足を止め、生徒の発表に耳を傾ける様子が見られました。



中には、トンボの生態について探究した生徒が、実際にヤゴを持参し、動きを見せながら説明するなど、来場者の興味を引きつける工夫を凝らした発表もありました。こうした工夫は、単なる発表にとどまらず、「相手に伝える」ことを意識した主体的な学びの成果といえます。また、会場には昨年度同様の発表を経験した卒業生も訪れ、後輩の発表を見守りながらアドバイスや激励の言葉をかける姿が見られました。

参加した生徒は他校の生徒や市民の方々との交流を通して、

- 「さまざまな年代の人から意見をもらい、視野が広がった」
- 「想定していなかった深い質問を受け、事前準備の大切さを実感した」
- 「他校の発表を聞いて、新たな興味や関心が生まれた」といった振り返りがありました。



発表という経験を通して、自分の考えを整理し、他者に伝え、さらに新たな課題に気づくという学びの循環が生まれ、生徒一人ひとりの成長が感じられる機会となりました。